

## おばけのような字でもほめること

急激な進歩というものは、どこかにむりを生じ、かえって有害なことが、あとから起こってくるものです。ですから、おばけのような字も、あわてて直そうとしないように願います。そういう段階は、正常な子どもがかならず通る段階ですから、安心してそのままにしておいてください。時期がくれば、絵がうまくなると同時に、字もしっかりと書くようになってきます。

どうも、絵だと、子どもらしい絵を喜んで見ていられるおかあさん(いや、先生でもそれが多いのですが.....)も、字となると、子どもらしい、つまり、おばけのような字を書くのが、冷静に見ていられないものようです。実に、一人まえの人間に対してするような要求をするおかあさんが多いようです。

これでは子どもがかわいそうですし、かえって正常な発達がさまたげられてしまいます。

絵だって、ひとりでに正常な絵に成長していくように、字だって、だ

んだん、字らしい字に成長していくのです。それは、はたでやかましく教えたから、うまくなるものではなく、時期が来れば、ひとりでに、しっかりした字を書くようになるのです。

いまの文部省指導方式では、読むのと書くのをいっしょに教えることになっています。書くことによって、漢字の認識が深まるからだというのです。それはりくつの上ではそうです。しかし、漢字の認識を深めるために、書かせるというのは、あまりにもむだが多すぎることを知らなくてははいけません。

漢字の意味や使い方がしっかりとわからないうちから、字画もどうなっているのかもわからないうちから、漢字を書かせて、どうしようというのですか。「漢字を書く」ということは、ある意味を表現する、ということですが。心の中にある、ある考えを表わすということですが。意味や使い方のわからない漢字を書くということは、まったく無意味な仕事といわなければなりません。こういう仕事を子どもにくり返しくり返しさせていますと、頭を使うことのできない、無気力な子どもができてしまいます。